

# Library Sketch



ライブラリー・スケッチ

## 「ワンポイント展示」

絵・文とも 小川遥香

皆さんは「ワンポイント展示」をご存知でしょうか。本学図書館の本館に入ってすぐ正面、ビジュアル資料室にて不定期で行われている図書展示のことです。図書館職員の方々が厳選した様々なテーマにのっとり、それらに関連した書籍を展示しているのです。今回はピーターラ

ビットの様々な本を集めて展示されていました。皆さんの興味を引く書籍を発見できるかもしれません。閲覧はもちろん、貸し出しも可能ですので、今後図書館へ足を延ばされる際には是非、注目してみてください。

おがわ はるか (英米語学科4年次生)

4月のピックアップコーナー

## ●「児童文学」

小澤文彦

児童文学は、一般的には子供たちを読者対象として創作される文学作品の総称で、お伽噺・童話・少年少女小説・童謡・児童劇などを指すと考えられます。

本学図書館のホームページを開いて図書館作成のデータベースの中にある「国別にみる児童文学」をクリックしてみてください。世界25カ国の様々な絵本・民話・童話の一覧表が現れ、冊数は300を越えるかなり多くの本が図書館に登録されていることが分かります。タイトルを見れば、既に読んだ本とかアニメや漫画でお馴染みの作品も多いことでしょう。

『グリム童話』や『アンデルセン童話』などが子供のための本であるのは納得できるでしょうし、『不思議の国のアリス』、『ハイジ』、『オズの魔法使い』、『星の王子さま』、『秘密の花園』なども成る程と思われるでしょう。『ハックルベリー・フィンの冒険』や『ハリー・ポッター』

など、最初は大人向けだったのが現在では児童文学として扱われ、『ライ麦畑でつかまえて』のように児童年齢を超えた20代の年齢層を対象とした作品も、内容的に児童文学のジャンルに含まれるとされています。児童文学は子供向けのやさしい内容の本だと決めつけずに、既に読んだことがあっても手に取って見て下さい。もう一度読んでみると、意外なほど含蓄があって奥行きのある深い作品があることに驚かされると思います。

今月は本学で外国語を学んでおられる皆さんのために、日本の児童文学以外の翻訳本とそのもとになった原書を取り上げてみたいと思います。外国語に触れるチャンスは、他大学の方々に比べたら羨ましいほど沢山ありますから、是非ともこの機会を活用してみてください。

おざわ ふみひこ (情報サービス課)